

国語 第4学年 中心となる語や文を見つけて要約し、調べたことを書こう 授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。光村図書出版『国語』（令和6年度版）第4学年下巻の、読むこと（説明文）と書くこと（リーフレット）を組み合わせた単元。単元名・教材名・配当時数は同社の年間指導計画例による。他社の教科書では教材が違うので、説明文を目的に合わせて要約し、調べたことを考えと理由・事例が分かるように書く単元に置き換える。段落の分け方、取り上げられている工芸品、要約の字数は使う教科書の本文と手引きで確かめる。

この単元で子どもが最後にできるようになること

この単元を終えた子どもは、説明文を要約する前に「何のために、誰に向けて要約するか」を決め、その目的に合わせて、まとまりごとの中心となる語や文を選び、書き手の考えを落とさずに要約できる。目的が変わると残す語や文も変わることを、自分の要約を比べて説明できる。そのうえで、自分で調べた工芸品について、伝えたいよさ（考え）と、その理由や事例を分け、本や事典から引用して出典を示しながら、読み手に考えと理由の関係が分かるリーフレットを書ける。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第3学年及び第4学年〕〔知識及び技能〕(2)イ	イ 比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使うこと。
〔第3学年及び第4学年〕B書くこと(1)ウ	ウ 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫すること。
〔第3学年及び第4学年〕C読むこと(1)ウ	ウ 目的を意識して，中心となる語や文を見つけて要約すること。
〔第3学年及び第4学年〕〔知識及び技能〕(3)オ	オ 幅広く読書に親しみ，読書が，必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。
〔第3学年及び第4学年〕〔知識及び技能〕(2)ア	ア 考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。
〔第3学年及び第4学年〕C読むこと(2)ア	ア 記録や報告などの文章を読み，文章の一部を引用して，分かったことや考えたことを説明したり，意見を述べたりする活動。
〔第3学年及び第4学年〕B書くこと(2)ア	ア 調べたことをまとめて報告するなど，事実やそれを基に考えたことを書く活動。
〔第3学年及び第4学年〕の目標(3)	(3) 言葉がもつよさに気付くとともに，幅広く読書をし，国語を大切にしてい、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(1)	(1) 単元など内容や時間のまとまりを見通して，その中で育む資質・能力の育成に向けて，児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際，言葉による見方・考え方を働かせ，言語活動を通して，言葉の特徴や使い方などを理解し自分の思いや考えを深める学習の充実を図ること。

学習指導要領の項目	原文
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(3)	(3) 第2の各学年の内容の〔知識及び技能〕に示す事項については、〔思考力、判断力、表現力等〕に示す事項の指導を通して指導することを基本とし、必要に応じて、特定の事項だけを取り上げて指導したり、それらをまとめて指導したりするなど、指導の効果を高めるよう工夫すること。なお、その際、第1章総則の第2の3の(2)のウの(イ)に掲げる指導を行う場合には、当該指導のねらいを明確にするとともに、単元など内容や時間のまとまりを見通して資質・能力が偏りなく育成されるよう計画的に指導すること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(9)	(9) 障害のある児童などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(10)	(10) 第1章総則の第1の2の(2)に示す道德教育の目標に基づき、道德科などとの関連を考慮しながら、第3章特別の教科道德の第2に示す内容について、国語科の特質に応じて適切な指導をすること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 2(2)	(2) 第2の内容の指導に当たっては、児童がコンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用する機会を設けるなどして、指導の効果を高めるよう工夫すること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 2(3)	(3) 第2の内容の指導に当たっては、学校図書館などを目的をもって計画的に利用しその機能の活用を図るようにすること。その際、本などの種類や配置、探し方について指導するなど、児童が必要な本などを選ぶことができるよう配慮すること。なお、児童が読む図書については、人間形成のため偏りがないよう配慮して選定すること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 3(2)ク	ク 我が国の伝統と文化に対する理解と愛情を育てるのに役立つこと。

単元の目標

- (1) 比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使う。幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付く。〔知識及び技能〕(2)イ・(3)オ)
- (2) 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する（読むこと C(1)ウ）。自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫する（書くこと B(1)ウ）。
- (3) 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。（第3学年及び第4学年の目標(3)）

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①引用の仕方や出典の示し方、事典の使い方を理解し使っている。((2)イ) ②幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。((3)オ)	①「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約している。(C(1)ウ) ②「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)	①積極的に、目的に合わせて中心となる語や文を見付けて要約したり、考えと理由や事例との関係を明確にして書き表し方を工夫したりし、学習の見通しをもって、調べた工芸品のよさをリーフレットに書こうとしている。

単元の流れ

全12時間（読むこと6時間・書くこと6時間）。光村図書出版『国語』（令和6年度版）の年間指導計画例（4年）の配当による。年間指導計画に合わせて増減する。国語の標準授業時数は第4学年で年間245単位時間（学校教育法施行規則 別表第一）。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○題名から、工芸品について知っていることを出し合う。 ○範読を聞き、初めて知ったことと書き手の考えについての感想を書く。 ○学習課題「工芸品のみりよくを、要約や調べたことを使ってリーフレットで伝えよう」を決め、学習計画を立てる。	態①（発言・ノート）
第2次	2	○文章の組み立てを捉え、書き手の考えが書かれている段落と、事例が書かれている段落を分けて組み立て図にする。	
	3 （本時）	○「工芸品のみりよくを家の人に伝える」という目的に合わせて、まとまりごとの中心となる語や文を見付け、文章全体を要約する。	思①（ノート）
	4	○目的を変えて要約し、本時の要約と比べて、目的によって選ぶ語や文が変わることを確かめる。 ○工芸品や書き手の考えについて、自分の考えをノートに書く。	思①（ノート）
	5	○要約と自分の考えを伝え合う。 ○工芸品について書かれた本や事典を読み、分かったことを友達に伝える。	知②（読書記録・発言）
	6	○読む学習を振り返り、要約の仕方をまとめる。 ○リーフレットの作例を見て、書く学習の進め方を確かめる。	
第3次	7	○紹介したい工芸品を選び、事典や本、先生が選んだウェブサイトで調べ、出典と合わせてカードに書き留める。	知①（カード）
	8	○調べたことを、伝えたいよさ（考え）と、その理由や事例に分けて整理する。	
	9	○リーフレットの面の割り付けと、考えと理由・事例のつながり方を考え、組み立てメモに書く。	思②（組み立てメモ）
	10	○組み立てメモに沿ってリーフレットを書く。引用する部分はかぎで示し、出典を書く。	知①（リーフレット）
	11	○書いた物を読み返し、考えと理由・事例のつながりを確認して書き直す。	思②（リーフレット） 態①（見直し）
	12	○リーフレットを読み合い、感想を伝え合う。 ○単元の学習を振り返る。	態①（振り返り）

本時の案

本時の目標：「工芸品のみりよくを家の人に伝える」という目的に合わせて、まとまりごとに中心となる語や文を見付け、書き手の考えを落とさずに文章全体を要約できる。(C(1)ウ)

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 (分)	1 前時に作った組み立て図（考えの段落と事例の段落）を確かめる。 2 要約する目的を確かめる。 ○「今日は、工芸品のみりよくを家の人に伝えるために要約します。どんな言葉や文を残せばよいでしょう」 【めあて】目的に合わせて中心となる語や文を見つけ、文章を要約しよう。 〈予想される児童の反応〉 ・大牧さんの考えが書いてある文は残したい。 ・工芸品の名前は残さないと伝わらない。 ・事例の細かい所は短くしてもいい。	・前時の組み立て図を黒板に貼る。 ・第4学年の前半で学んだ要約の仕方（中心となる語や文を使う、自分の言葉でつなぐ）を掲示で思い出させる。 ・要約の字数は使う教科書の手引きに合わせて先生が決め、めあての横に書く。
展開 (分)	3 一人で、まとまりごとに中心となる語や文に線を引く。 ○「このまとまりで、大牧さんがいちばん伝えたいことはどの文ですか。その文の中で、外せない言葉はどれですか」 4 線を引いた語や文を使い、つなぐ言葉を補って要約を書く。 5 ペアで要約を比べ、残した語や文と、その理由を説明し合う。 ○「二人の要約で、残した言葉は同じですか。違うのはどこですか。なぜその言葉を残しましたか」 6 全体で何人かの要約を比べ、目的に合う要約に入っている語や文を確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・段落の初めや終わりの文に考えが書いてある。 ・何度も出てくる言葉が中心になる。 ・工芸品のよさを表す言葉を残したい。 ・作る人の思いが書いてある所も残した方が、家の人に伝わる。 ・同じ文を選んだけれど、つなぎ方が違う。 ・事例を全部書くと長くなりすぎる。	・線を引く前に、要約する目的を一人一人に声に出して確かめさせる。 ・どこに線を引くか迷う子には、まとまりの初めの文と終わりの文を比べさせ、「どちらにまとまり全体のことが書いてあるか」と聞く。 ・要約が長くなる子には、事例の細かい説明を消してよいか、目的に戻って考えさせる。 ・要約が短すぎて大牧さんの考えが抜けている子には、組み立て図の考えの段落を指して確かめさせる。 ・書くのが苦手な子には、まとまりごとに中心となる文を書き写す枠のあるワークシートを渡す。 ・早く終わった子には、目的を「工芸品を作る人に感想を伝える」に変えたら残す言葉が変わるかを考えさせる。 ・教科書の文の引用は、使う教科書から先生が書き入れる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
まとめ (分)	7 友達の要約と比べて気付いたことを生かし、自分の要約を見直して書き直す。 【まとめ】要約するときは、目的に合わせて、まとまりの中心となる語や文をえらび、書き手の考えを落とさずにつなげる。 8 振り返りを書く。	・まとめは子どもの言葉で作り、上の文は例として扱う。 ・振り返りは「中心となる語や文を選んだ理由」と「友達の要約と比べて気付いたこと」の二つで書かせる。 ・次時は、目的を変えて要約を比べることを伝える。 ◎思① 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約している。(ノート)

板書の構造（縦書き・右から左へ）

縦書きで右から左へ書く。右端に日付・題名・めあてと要約する目的（家の人に工芸品のみりよくを伝える）。その左に前時の組み立て図（考えの段落と事例の段落を枠で分けた図）。中央に、まとまりごとの中心となる文のカード（先生が教科書から書き入れる）を順に並べ、子どもが選んだ外せない言葉に色で線を引く。その左に子どもの要約を何人か貼り、同じ言葉と違う言葉を比べる。左端にまとめと、振り返りの観点二つ。

つまずきやすい所と手当て

つまずきやすい所は五つ。一つ目、要約を「短くすること」と考え、段落の初めの文だけを並べて、書き手の考えが抜ける。手当ては、組み立て図で考えの段落を先に確かめ、そこにある語や文は必ず入れることを全員で決めること（C(1)ウ）。二つ目、事例の細かい説明を全部残して長くなる。手当ては、目的を声に出して確かめ、「家の人に伝えるのに、この説明は要るか」を一文ずつ判断させること。三つ目、中心となる文を本文のまま書き写すだけで、つなぐ言葉を補えない。手当ては、つなぐ言葉の一覧（だから・このように・つまり など）を掲示し、写した文の間に入れさせること。四つ目、書く学習で、調べたことを並べるだけになり、何がよさなのか（考え）が書かれない。手当ては、カードを「考え」「理由・事例」の二つに分ける時間を取り、考えのカードが無い子には「いちばん伝えたいよさは何か」を一言で言わせること（(2)ア、B(1)ウ）。五つ目、本やウェブサイトの文をそのまま写し、どこからの文か分からなくなる。手当ては、写す時はかぎで囲み、カードの下に出典を書く決まりを第7時の初めに確かめること（(2)イ）。

プリントの案

組み立て図（読むことと書くことで同じ形を使う）

上に「考え」の枠、その下に「理由・事例」の枠を並べ、線でつなぐ。読む学習では教材文の段落の番号を書き入れる。書く学習では自分が調べた工芸品のよさ（考え）と、その理由や事例のカードを貼る。〔知識及び技能〕(2)アとB(1)ウに合わせた。

本時のワークシート（目的に合わせた要約）

上に要約する目的を書く欄。中ほどに、まとまりごとに中心となる語や文を書き写す枠（文は先生が教科書から書き入れるか、子どもが書き写す）。下に要約を書くます目の欄（字数は使う教科書の手引きに合わせる）と、残した言葉の理由を書く欄。C(1)ウに合わせた。

調べたことのカード

一枚に事柄を一つ。上に調べたこと、本や事典から写した文はかぎで囲む。下に出典（本の名前・書いた人・ページ、またはウェブサイトの名前）を書く欄。右上に「考え」「理由・事例」のどちらに使うかの印。〔知識及び技能〕(2)イに合わせた。

リーフレットの割り付け用紙

折りたたんだ面ごとに（折り方は使う教科書の作例に合わせる）、表紙（工芸品の名前と、いちばん伝えたいよさ）、中の面（理由や事例と引用）、裏の面（出典の一覧）の欄。中の面は見出しを付けて考えと理由・事例を分けて書く。B(1)ウに合わせた。

出典：小学校学習指導要領（平成29年告示）（文部科学省）（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語』（2020年）。評価標準の文末と3観点の形、主体的に学習に取り組む態度の評価標準の作り方（粘り強さ・学習の調整・重点とする内容・言語活動）（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）／同 参考資料の一覧ページ（国立教育政策研究所）（<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryoku.html>）／光村図書出版『国語』（令和6年度版）年間指導計画例（4年）「4年下巻」の本単元の行。単元名・教材名・配当時間（読むこと6時間・書くこと6時間）と指導目標の指導事項の出典。第4学年上巻に要約の学習があることも同じ計画例で確かめた。指導計画の文は写していない（https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/3db56761-ee29-4e40-81b8-d9480c60cd85/368）／光村図書出版 小学校国語 年間指導計画・評価計画のページ（<https://www.mitsumura-tosho.co.jp/kyokasho/s-kokugo/keikaku>）／学校教育法施行規則 別表第一（国語の標準授業時数 第1学年306・第2学年315・第3学年245・第4学年245）。e-Gov法令検索（<https://laws.e-gov.go.jp/law/322M40000080011>）／三重県で公開されている小学校の学習指導案の形（見出しの順と表の列）に合わせた。中身は写していない。例：三重県総合教育センター掲載の実践事例集（令和7年度）（https://www.mpec.jp/wp-content/uploads/2026/03/r7_ICT_English_case_studies.pdf）／三重県「三重の伝統工芸品（国指定・県指定一覧）」。経済産業大臣指定伝統的工芸品の品目名（https://www.pref.mie.lg.jp/CHISHI/HP/72503045146_00001.htm）

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

